

千葉県匝瑳市の脱炭素化推進プロジェクトへの参画について

三菱UFJ信託銀行株式会社（取締役社長：長島 巖、以下「三菱UFJ信託銀行」）は、環境省の定める「脱炭素先行地域」に選定された千葉県匝瑳市の脱炭素化推進プロジェクト（以下「本プロジェクト」）の共同提案者として参画し、地域のゼロカーボンに向けて取り組んでまいります。

本プロジェクトでは、水田におけるソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）をはじめとした様々な脱炭素化に関する取り組みを実施し、エネルギーの地産地消モデルの実現を目指しています。

三菱UFJ信託銀行は、匝瑳市や地域の事業会社や金融機関と協働し、事業への出資やスキーム構築等を支援することで、地産地消の経済圏の創出の実現に貢献してまいります。



2024年1月15日 脱炭素先行地域選定証授与式
伊藤環境大臣、宮内匝瑳市長他、共同提案者との記念撮影

【脱炭素先行地域とは】

2050年カーボンニュートラルに向けて、民生部門（家庭部門および業務その他部門）の電力消費に伴うCO2排出の実質ゼロを実現し、運輸部門や熱利用等も含めてその他の温室効果ガス排出削減についても国全体の2030年度目標と整合する削減を地域特性に応じて実現する先駆的な地域。環境省は2025年度までに少なくとも100か所選定予定。

【事業概要】

事業名	そうさ！匝瑳モデルで脱炭素！ ～ソーラーシェアリングを中心とした脱炭素化推進プロジェクト～
主たる提案者	匝瑳市
共同提案者	匝瑳みらい株式会社、市民エネルギーちば株式会社、株式会社しおさい電力株式会社富士テクニカルコーポレーション、学校法人千葉学園 千葉商科大学 国立大学法人福島大学、匝瑳市植木組合、株式会社ETA Network Japan 株式会社エコグリーン、ボーソー油脂株式会社、千葉県大利根土地改良区 クレアトゥラ株式会社、株式会社EG Forest、株式会社カインズ、八日市場金融団 特定非営利活動法人環境エネルギー政策研究所、匝瑳市商工会 三菱UFJ信託銀行株式会社
取組の全体像	市の主要産業である稲作農家が集積し、従来から畑作営農型ソーラーシェアリング(SS)が導入されている豊和・春海地区における水田営農型SSの導入等により、脱炭素化を実現。福祉・医療施設等を中核に「生涯活躍のまち」づくりを進める飯倉地区、市役所等の公共施設や商業施設が集積する中央地区と連携した農福・防災連携の取組により、高齢者の雇用確保や市街地でのレジリエンス強化、更に営農型SSの研究・人材育成を行うソーラーシェアリング・アカデミー事業の実施により、農業振興による関係・交流人口増加と移住・定住の促進を目指す。

詳細は、以下の環境省のURLより10Pをご覧ください。

<https://www.env.go.jp/content/000170537.pdf>

【お問い合わせ】

三菱UFJ信託銀行株式会社：フロンティア戦略企画部 (03) 6256-1510

以上